

## 保護区の環境保護および研究対象：

- ・自然状況とその変化
- ・保護区内固有の貴重な動植物
- ・当地に特有な、珍しい生態系、風景、そして南クリル列島の動、植物の多様な種と群

## 保護区では原則として、

以下のような人間の活動は禁じられています。

- 許可なしで（徒歩または車のいずれにかかわらず）保護区内に侵入すること
- 水資源の利用、攪乱
- 鉱物の採集や採掘、地表の攪乱
- 商業的建物または住宅の設置、配電工事、道路建設
- 樹木伐採、干し草作り、牧畜
- 野生の果物、木の実、きのこ、花、種の採集
- 狩猟や釣り
- 動植物の養殖や新品種の移植
- 動植物や鉱物のサンプルの採集（科学調査などで保護区が特別に許可をした場合を除く）
- ハイキング、キャンプ、ボート漕ぎ、その他のレクリエーション
- その他、保護区の目的や運営に反する行動

## 保護区の活動：

- ）あるがままの状態の自然保全
  - ）人命や動物、保護区の自然状態を脅かす公害や火災の防止
  - ）生態学調査などの科学的研究
  - ）環境教育
- 保護区に入るには管轄事務所の発行する許可が必要です。

研究は下記の要員によって行われます。



- 1) 保護区職員、2) 保護区と共同研究に従事し、保護区と同じ目的をともにする研究所、大学または他の高等教育機関に所属する外部の学者。

保護区には緩衝帯が設けられていて、そこでは、上記の規則が緩和されています。保護区の許可があれば、ある程度の産業または農業活動が認められ、レクリエーションや交通も許されています。

Blakiston's fish owl

Steller's sea-eagle



国立クリルスキー自然保護区は、自然保護、学術調査、および環境啓蒙活動を行うロシア連邦の機関である。クリルスキー自然保護区は、1984年に創設された。ロシアの100ある自然保護区の一つである。クリルスキー自然保護区の領域には南千島列島の数島の区域が含まれる。それは大千島列島のもっとも南の島、国後島の北部と南部

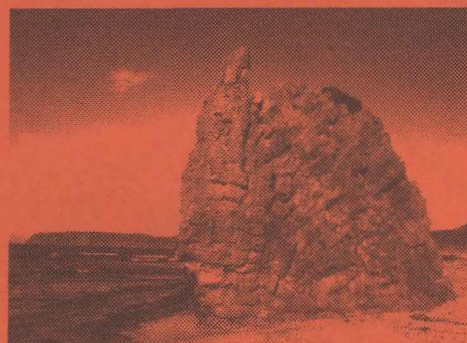
の区画と（島の総面積は15万ヘクタール、全長は123キロメートル、幅は8～30キロメートル）、ハルカリモシリ島、オスコルキ島（\*注カナクソ岩、海馬島、カブ島）である。クリルスキー自然保護区の管轄内には、マーラヤクリルスカヤ群島のすべての島々を含むマールイェクリルイ禁猟区も入っていて、そこには色丹島の大部分も含まれる。保護区の面積は6万5千365ヘクタールで、保護区のバッファゾーンは4万1千475ヘクタールである。禁猟区は面積は4万5千ヘクタールである。ユジノクリルスク地区の特別自然保護区は、その面積の60%を以上を占めている。



本編は、米国開発庁（USAID）の助成金による米国民間研究開発財団

（American Fund of Civil Research and Development）

の“エコ・リージョン”プログラム（プロジェクトRXO-1177）の中で、世界野生生物基金（WWF）が資金供与を行って出版された。



Printed by printing-house "Na rubezhe",  
Yuzhno-Kurilsk Circulation 1500 copy Order 26



国立クリルスキー自然保護区



# クリリスキー自然保護区とマールイェクリルィ禁猟区の地図

国立クリリスキー自然保護区



**DESIGNATION:**

- Territory of Kurilsky Zapovednik
- Territory of Malye Kurilly Special Purpose Preserve
- Kurilsky Zapovednik's land buffer zone and sea buffer zone 1 mile wide

国後島には4つの活火山、爺々岳、ルルイ岳、羅臼山、そして泊山がある。これらの火山は羅臼山を除いて全て、クリリスキー自然保護区の区域内にある。爺々岳(1819m) - 世界で最も美しい火山だ。18個の副次的な崖錐とクレーターを持っている。火山の南東斜面のオトバージュニクレーターは、2週間続いた1973年の一番最近の噴火で噴出したものである。泊山(547m) - カルデラは、直径4km

の広々とした火山性の盆地である。盆地の底はガリャチェエ湖(深さ60m以上)になっている。盆地の中には2つの溶岩ドームがあり、そのうちの一つの側にキビャシエ湖(深さ35m以上、平均水温+36℃)がある。湖の周りには、熱いガスと熱湯の流れが噴出している。マールヤクリスカヤ群島(\*注 齒舞諸島と色丹島)には火山はない。

南千島には1215種の維管束植物が生育している。国後島の植物相は1055種を数える。これは全千島列島の植物相のほぼ60%にあたる。マールヤクリスカヤ群島の島々の中では最大の島、色丹島で最も多くの種、668種が見られる。南千島地区には、東アジア地域に生息する“南”の種と、“北”の、厳しい気候の地域に特有な種が存在している。国際自然保護連合のレッドデータブックに24種の維管束植物が記載されており、それらは世界的に希少で、絶滅の危機に瀕している。それ以外にも、保護区と禁猟区の領域には、ロシアのレッドデータブックに記載されている44種の植物とキノコが生育している。自然保護区の面積の74%を森林が占める。森林の大半はトドマツ(*Abies sachalinensis*)とアカエゾマツ(*Picea japonica*)で、一部広葉樹が入り交じっている。ここではオヒョウ(*Ulmus laciniata*)、ハリギリ(*Kalopanax septemlobus*)、キハダ(*Phellodendron sachalinense*)、ナナカマド(*Sorbus commixta*)、シウリザクラ(*Padus siori*)。木々にはツタが絡まり、その下には灌木や茂みが生い茂る - 赤スグリ(*Ribes latifolium*)やノリウツギ(*Hydrangea paniculata*)、エゾニワトコ(*Sambucus sieboldiana*)、イヌツゲ(*Ilex*)などである。

静寂が全てを包み込む... 木々についた沢山のコケや地衣類が、音を和らげている...

クリリスキー自然保護区は、日本の学術調査機関や自然保護機関と共同で千島の自然の研究や保護を行っている - 日本野鳥の会 Center for Wild Birds and Nature of the Globe(WING)、Friends of the Earth-Japan 地球の友ジャパン)、北海道大学(札幌市)、根室市博物館準備室郷土資料保存センターなどである。1998年から2000年にかけて、海洋調査を含む日露学術共同調査が何回も行われた(千島の動物相、植物相の調査、火山学の調査など)。このような協力により、千島列島の自然保護地域の国際的な重要性を高め、ロシアと日本の友好的な結びつきを強めることができている。

